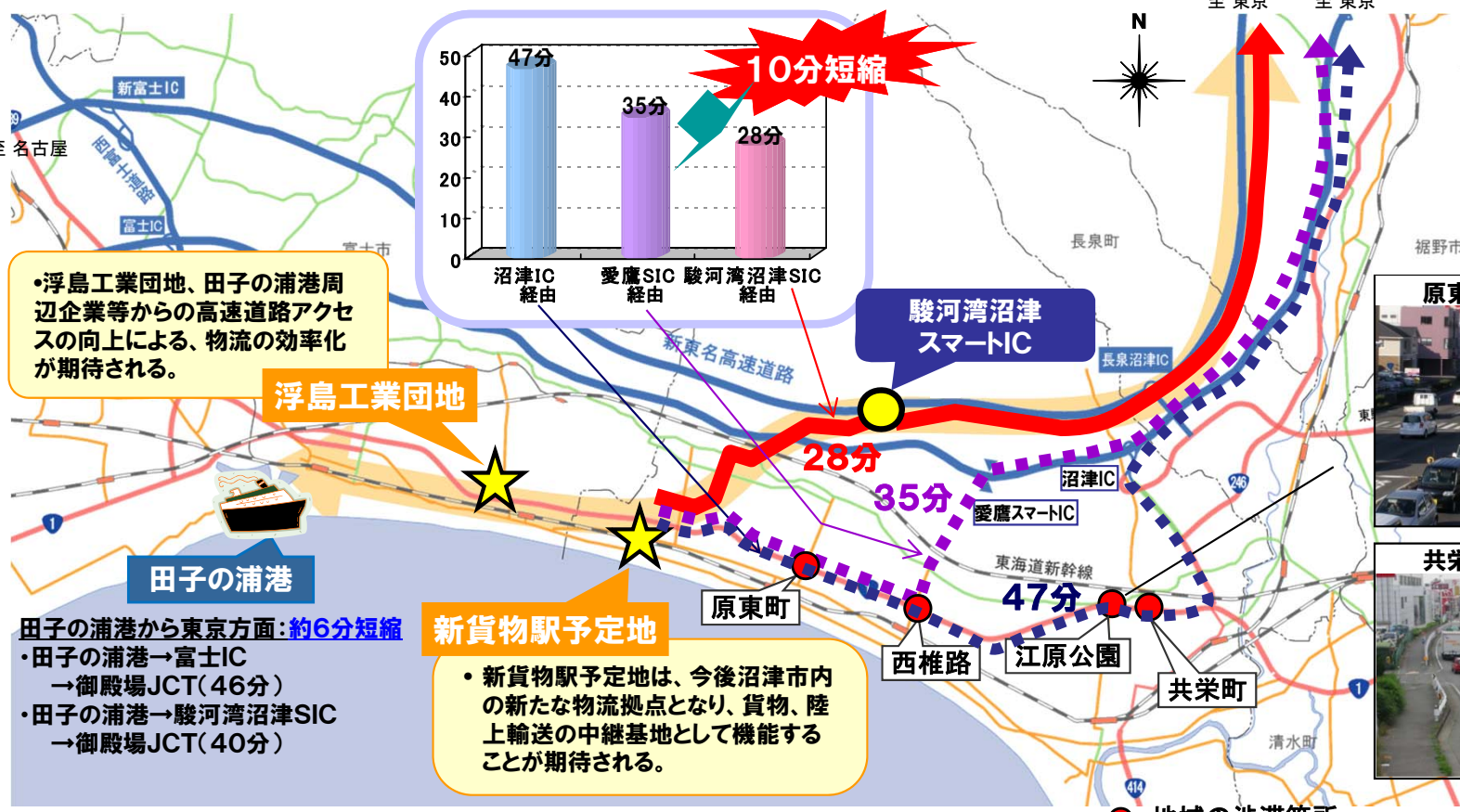


駿河湾沼津スマートICの設置により期待される整備効果

①重要港湾や鉄道貨物駅予定地、工業団地からのアクセス性向上による産業活動の支援

- ・ 国道1号は静岡県内でも高い渋滞損失時間の交差点が点在するため慢性的な混雑が生じており、特に江原交差点は県内で最も高い渋滞損失時間を有しています。
- ・ 駿河湾沼津スマートICを利用することで、国道1号の混雑を避けて高速道路へアクセスすることが可能となり、東京方面へのアクセス時間が新貨物駅予定地から**約10分短縮**されます。
- ・ 高速道路へのアクセス性向上により、沼津市西部地域の企業誘致促進や雇用拡大など地域産業の活性化が期待されます。

<新貨物駅予定地から東京方面(御殿場JCT)へのアクセス時間短縮>



・浮島工業団地、田子の浦港周辺企業等からの高速道路アクセスの向上による、物流の効率化が期待される。

田子の浦港から東京方面:約6分短縮

- ・田子の浦港→富士IC →御殿場JCT(46分)
- ・田子の浦港→駿河湾沼津SIC →御殿場JCT(40分)

新貨物駅予定地

- ・新貨物駅予定地は、今後沼津市内の新たな物流拠点となり、貨物、陸上輸送の中継基地として機能することが期待される。

<地域の渋滞箇所>

沼津市内 損失時間			
路線名	区間名 or 交差点名	県内順位	損失時間計 [千人時間/年]
一般国道1号	江原公園	1	1,384
一般国道1号	西椎路	4	1,073
一般国道1号	原東町	11	748
一般国道1号	共栄町	23	649

出典: 民間プローブデータより集計(国土交通省提供)



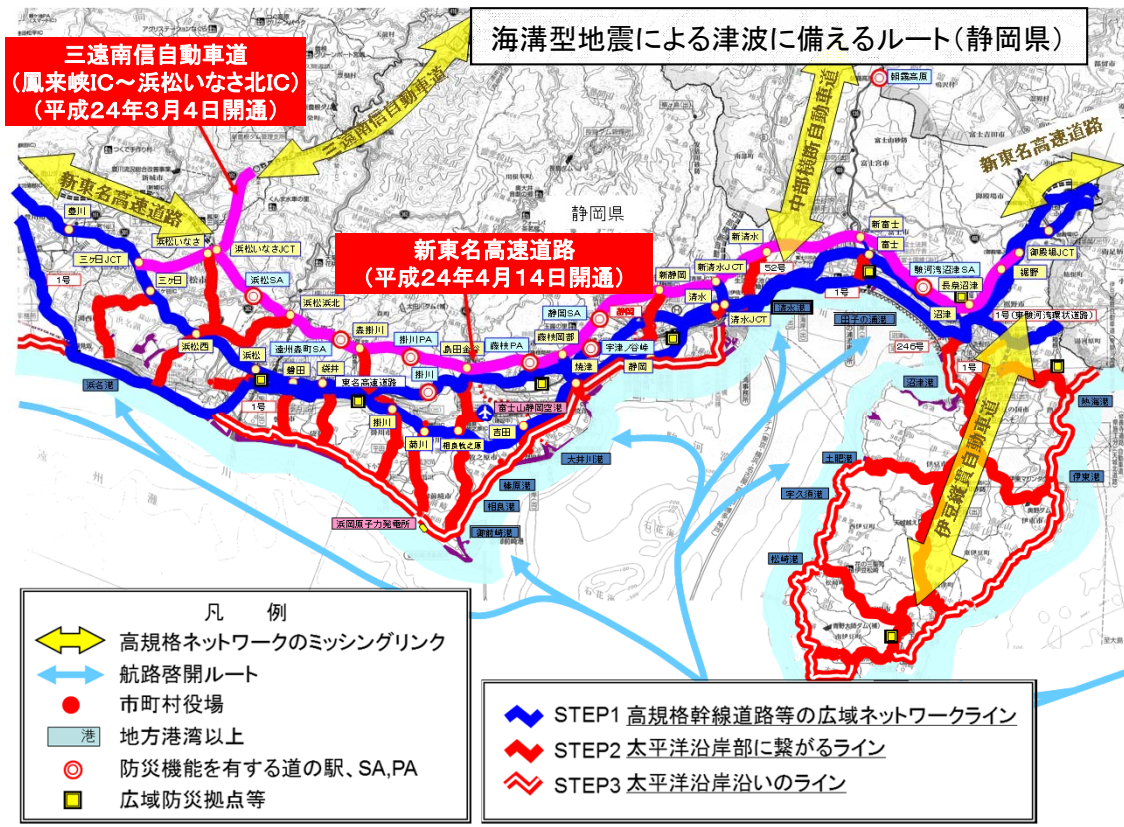
※1.アクセス時間: H22道路交通センサ混雑時旅行速度より算出
 ※2.駿河湾沼津スマートICアクセス道路(県道三島富士線以北)は20km/hとした

駿河湾沼津スマートICの設置により期待される整備効果

②災害時の復旧支援ルート確保・防災拠点へのアクセス向上

- ・「早期復旧支援ルート確保手順(中部版 くしの歯作戦)」に加え、駿河湾沼津スマートIC及び愛鷹スマートIC及び、スマートICへのアクセス道路を活用することで、地盤沈下等により国道1号が被災した際にも、新東名高速道路、東名高速道路から沼津市西部地域への**復旧支援ルートが早期に確保**されます。
- ・駿河湾沼津スマートICへのアクセス道路の整備により、山間部に位置する駿河湾沼津SAへのアクセス性が向上することで、災害時の防災拠点としての効果がより一層発揮されます。
- ・災害により東名高速道路(若しくは新東名高速道路)が被災した場合にも、駿河湾沼津スマートIC⇔愛鷹スマートICを利用した代替路線の選択が可能となり、東名高速道路⇔新東名高速道路のダブルネットワークの更なる活用が可能となります。

<くしの歯作戦(静岡県)による復旧支援ルート確保計画>



<大規模地震発生時における静岡県緊急輸送路図・静岡県航空受援訓練の実施状況>



出典：静岡県緊急輸送路図、沼津市津波ハザードマップ

駿河湾沼津スマートICの設置により期待される整備効果

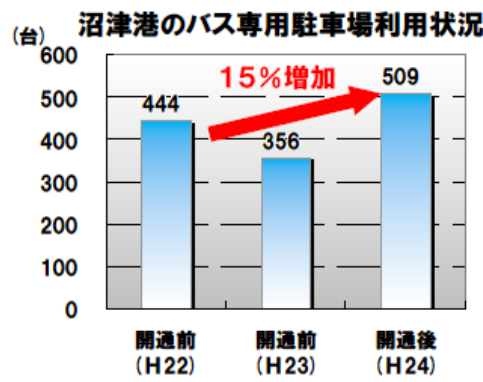
③ 駿河湾沼津SAを含めた市内周遊観光の促進

- ・ 駿河湾沼津SAは、新東名高速道路供用以降1ヶ月で1日平均2万人が訪れており、沼津市内の一大観光スポットとなっています。
- ・ 駿河湾沼津スマートICを設置し、**沼津市内の観光資源をアピール**することで、遠方より駿河湾沼津SAを訪れる来訪者の更なる**市内周遊観光が期待**されます。

<沼津西部～沼津港周辺の観光資源>



<新東名開通後の沼津港観光客の変化>



出典：沼津市産業振興部観光交流課資料
 開通前(H22)：平成22年5月・6月
 開通前(H23)：平成23年5月・6月
 開通後(H24)：平成24年5月・6月

沼津港観光施設へのヒアリング
 新東名開通前は関東方面（東京23区や神奈川）から来訪が多かったが、開通後は名古屋方面からの利用が増加しています。また、新東名からのアクセス方法など問い合わせ件数も増えています。



資料：新東名高速道路 御殿場JCT～三ヶ日JCT間
 開通後3ヶ月間の交通状況および整備効果
 平成24年7月24日 新東名(静岡県)インパクト調整会議

高速道路を利用した沼津市への観光客の声
 沼津港を観光した後、駿河湾沼津SAへ立ち寄りました。スマートICがないため、SAから市街地までの道程を往復しなくてはいけないので面倒でした。
 (沼津市ヒアリング)

